

道徳の時間で活用する ～規則の尊重～

美祢市立赤郷小学校 岡本 香

1 本場面におけるポイント

- 資料の中から「してはいけないこと」や「したほうがよいこと」を見付ける活動を通して、道徳的価値への気づきを促す。
- 実際の自分たちの生活場面の写真から、知っていてもできていないことが多いことに気付かせ、自分自身の問題として意識化を図る。
- 進んでよいことをしている上級生の言葉を聞くことで、どんな気持ちが行動につながっているのか自分とどこが違うのか考えさせ、実践への手がかりとする。

2 授業の実際

1 主題名 「知っている」を 「している」へ

2 ねらい

きまりやマナーについて、知っていることと実際の自分の行動とを比較することを通して、自分も社会の一員であり、公德を大切にしながら行動しようとする心情を高める。

3 展開

(1) 導入 道徳的価値に気付く

教師：この絵の中で、「してはいけない」と思うところを○で囲みましょう。
児童：「待合室でさわいだらだめだよ。」「ゴミはちゃんとごみ箱に捨てないと…。」「道路いっぱい広がって歩いたら危ないよね。」

教師：学校や地域で気持ちよくすごすためのきまりやマナーには、どのようなものがあるか考えてみましょう。
児童：「図書室では静かに本を読む。」「トイレをいつもきれいに使う。」「放送中はしゃべらない。」

□ 指導上の留意点等

資料の中から「してはいけないこと」をできるだけ多く見付けさせ、気持ちよく過ごすためのきまりやマナーの大切さを確認する。さらに、『私たちの道徳』に、見付けたきまりを書き込ませることにより、自分たちの生活に意識を向けさせ、公德心に関して「よく知っている」ことを十分認めるようにする。



「落書き」「順番ぬかし」「いすの上に立つ」など、たくさんのマナー違反を見付けて、○で囲む。



『私たちの道徳』P120～121
～気持ちよくすごすためのきまりやマナーを見付けよう～に写真を見ながら書き込んでいく。

(2) 展開 実際の行動との比較

教師：これは、この〇〇小の昇降口、教室…の写真です。
皆さんが「知っている」といったことと違いますね。
なぜ、「知っている」のにできないことがあるのですか？
児童：いつもは考えていないから。急いでいるから。
めんどくさいときがあるから。気が付かないから。
教師：あなたにどんな気持ちがあれば、できるようになると
思いますか。
児童：自分から気付けるようになる。人がいやな気持ちにな
ってしまうかも考える。



□ 指導上の留意点等

掃除の時間や「片付けましょう」という指示があったときには行動できるが、普段はなかなか気が付かない実態がある。そこで、実際の自分たちの日頃の学校生活を写した写真から、自分自身の問題として顕在化させるようにする。

(3) 終末 実践へつなげようとする心情を育てる

教師：6年生の〇〇さんの言葉を聞いてみましょう。
〇〇さんのようにできるようになると、どんないいことがあるでしょうか。
児童：自分もみんなも気持ちよくなる。やさしいことをするとなかよくなれる。
気持ちよくなってみんなうれしくなる。

□ 指導上の留意点等

「知っている」だけでなく、身近な
「している」人の言葉を聞くことで、
自分と同じ気持ちであったり、どこが
違うか考えたりし、実践化へつなげる
ようにする。

6年生の言葉

わたしは、自分がきれいなのが好きなんです。きたなかったら気分が悪いですよ？自分がしたことではなくても、やっておくと、その人が気が付けてくれるかな？と思うことがあります。でもきれいになると気持ちがいいです。そんなに
たいしたことはしてないんですけど…

3 実践を振り返って



本授業では、「きまりを守ることは大切」といった感想で終わるのではなく、知っているが実行できていない状況を資料として提示することで、価値の意識化→焦点化→顕在化→自覚化につなげようとして試みたものである。社会生活の中で大切にしたい公徳の意味を感じるにより、実践につなげようとする心を育みたい。育むことにつなげようと考えた。最後に、「知っている」を「している」へというキーワードにま

とめることで、児童から「あ～そうか！」という声が聞かれ、道徳的価値の違いを感じることができたと思う。